

知らないと見えない

1. オナガグモ

オナガグモは見えないクモです。結構いるのですが、これと指差してもわかってもらえません。動いて初めて認められるクモなのです。松葉が宙に浮いているようだと いわれますが、長くても3cmくらいなので、松葉の切れ端でしょう。

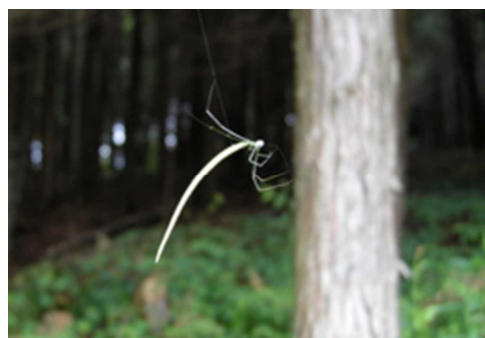


オオヒメグモ

ヒメグモ類中最大
体長7~8mm
家の物陰等に立体的な
不規則網を張る。

網は張りません。林間に1本の糸を張り、前2脚を揃えて前に伸ばし、後2脚は揃え、長い腹部にそわせた直線状で静止しています。私たちには糸が見えないため、空中に浮いていることとなります。写真のオナガグモは脚をちぢめていますので、なんとかわかります。まん丸い腹をしたヒメグモの仲間ですが、腹の背側の突起が長くなって全く違ったグループに見えます。緑色型と褐色型のものがいますが、どちらも全身が一色で模様は見られません。

張った糸を伝ってくる他種のクモを食べるクモであることが判明したのは近年のことで、身近にいてもわかっていないことが多いのです。



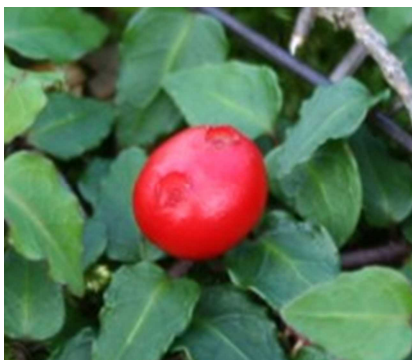
オナガグモ

2. ツルアリドウシ

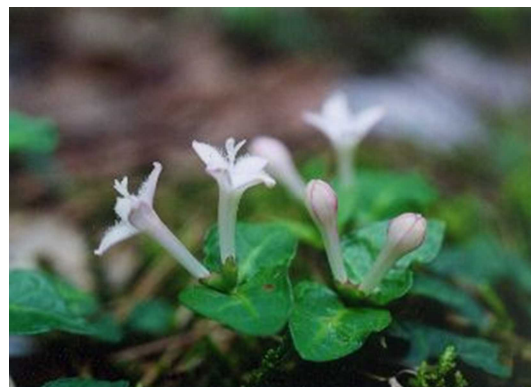
低木が密生していない、林床が少し明るい場所で花も実も目立つ小さな植物です。つる性で地面を這い、アリドオシの赤い実に似た実をつけることから名付けられていますが、アリドウシ(細長い棘をもつ小低木)は打吹山には生育しません。

5月末から6月、茎の先端にピンクがかかった白い小さな花を咲かせます。必ず2つ付き、花筒の先端は4枚に分かれ、白い毛が密生しています。

ツルアリドウシは、葉が対生につきますから、その延



ツルアリドウシの実



ツルアリドウシの花

長が一对の花です。しかし、その場所には果実は1個しか実りません。果実をよく見ると、耳のように花筒の跡が2つ見えます。実は2つの果実が合体しているのです。花の時期にも下部の子房は癒着しているのです。花には、めしべが長く伸びておしべが短いもの(写真)と、おしべが長く伸びてめしべがほとんど見えないものがあります。株によって違いますので、分布を確かめるのも興味深いでしょう。

対生している葉の根元の腋芽が伸びてつるになりますが、対ではなく、ほとんどが片側のみの伸長です。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2013)